

研究主題

「多様な価値観にふれ、多面的・多角的に考える生徒の育成」

～「考え、伝え合う」道德授業の実践を通して～

朝霞市立朝霞第五中学校

1 研究主題の設定理由

近年、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが一層求められている。このような課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観を前提として、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察する力を育成することが必要である。本校の生徒は、素直でやさしい生徒が多い一方で、狭く限られた人間関係の中でのコミュニケーションしかとれず、多様な価値観にふれ、自己の考えを広げる機会が少なく、物事を広い視野から捉えることができる生徒は少ない。そこで、道德授業における「考え、伝え合う」活動を通して、様々な見方や考え方から総合的に考察し、多面的・多角的に考える生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 「考え、伝え合う」道德授業を実践することで、自分だけでは気付くことができなかった多様な価値観にふれることができ、多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（授業研究部）
- (2) 多様化する生徒の実態に応じて、目標や方法などの「見える化」を行うことで、多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（環境整備部）
- (3) 指導重点目標を生徒の実態から設定し、家庭・地域と方向性を共有する取組を推進すれば多面的・多角的に考える生徒を育成できるであろう。（資料統計部）

3 研究の経過

時期	内容
4月18日	第1回校内研修会○研究テーマ決め ○研究組織・研究内容検討
5月12日	第2回校内研修会○研究部会（授業研究部、資料統計部、環境整備部）
6月20日	第3回校内研修会○アンケート ○学年ローテーション授業実施 ○師範授業 ○部会ごとの仮説の設定
7月11日	第4回校内研修会○指導者による授業参観及び講演会 指導者：国立教育政策研究所 教育課程調査官 飯塚 秀彦 氏 朝霞市教育委員会教育指導課 主幹兼課長補佐 太田 禎治 氏 テーマ「特別の教科 道德」の充実に向けて
8月22日	第5回校内研修会○講演会 講師：武蔵野美術大学 教授 三澤 一実 氏

埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

	テーマ「ファシリテーション能力の向上」
9月5日	第6回校内研修会○「考え、伝え合う」時間の実践演習
10月31日	第7回校内研修会○校内授業研究会指導案検討会（各学年）
11月28日	校内授業研究会 1年2組 教諭 菰原 竜「コロナ禍で気付いたこと」 指導者 朝霞市教育委員会教育指導課指導主事 川村 巖 氏 2年3組 教諭 加納 充浩「星置きの滝」 指導者 朝霞市教育委員会教育指導課指導主事 高梨 勝也 氏 3年1組 教諭 奥山 真衣「男らしさ 女らしさ 自分らしさ」 指導者 朝霞市教育委員会教育指導課指導主事 金井 邦夫 氏
12月5日	第8回校内研修会○「hyper-QUの活用について」説明会
2月6日	第9回校内研修会○指導者による授業参観及び講演会 指導者：埼玉県教育局義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 氏 テーマ「道徳授業における多面的・多角的に考える力」
3月	道徳授業参観 今年度のまとめと来年度の計画

4 研究の内容

(1) 授業研究部の取組

①学年ローテーション授業の実施

道徳の授業を月曜日の5時間目に設定し、学年内でのローテーションによる道徳の授業を全教員が実践することで全体の指導力の向上を図る。生徒の側からみれば、様々な教員の道徳の授業を受けることができ、教員の多様な価値観にふれることができる。また、「5中スタンダード」と称するワークシートを活用し、共通の振り返り項目を使用することで多面的・多角的な見方・考え方が身に付いたかどうかを自己評価する。

②授業相互見学

学年ローテーション授業を教員同士で見学し、お互いの授業を見合い振り返ることで、指導方法の工夫・改善を図った。見学する際には、「指導力改善のためのチェックシート」を活用し、授業について見学者と授業者で話し合う場を設定し、振り返りを行った。また、3月の学級懇談会にあわせて道徳の授業参観を行い、保護者にも道徳の授業を見学してもらった。



③指導者による授業見学及び講演会の実施

7月11日に国立教育政策研究所教育課程調査官の飯塚 秀彦 氏を招聘し、道徳の授業を参観し、指導・助言してもらった。また、校内研修会において、「特別の教科道徳の充実に向けて」をテーマに、1時間程度講演してもらい、教員と活発な意見交換ができた。



④全教員による指導案作成、校内授業研究会の実施

11月28日に各学年で校内授業研究会を実施した。指導案作成から全教員で練り上げ、授業する上での工夫点として「多面的・多角的に考える場面設定を行うこと」「生徒の意見を引き出すための指導方法を工夫すること」「生徒の思いや考えを可視化すること」等を重点として検討した。また、1年と3年の授業では、埼玉県独自の道徳教育教材資料集「彩の国の道徳『未来に生きる』」を活用した。1年「コロナ禍で気付いたこと」（中学校C よりよい学校生活、集団生活の充実）3年「男らしさ女らしさ、自分らしさ」（中学校A 向上心、個性の伸長）

(2) 環境整備部の取組

①ファシリテーション能力育成のための研修会の実施

道徳授業における教員のファシリテーション能力を育成するため、8月22日の校内研修会で、武蔵野美術大学 教授 三澤 一実 氏を講師として、「ファシリテーション能力の向上」をテーマに講演してもらった。また、9月5日の校内研修会において、教員同士で、多様な生徒の思いや考えを引き出すための指導方法について実践演習を行った。



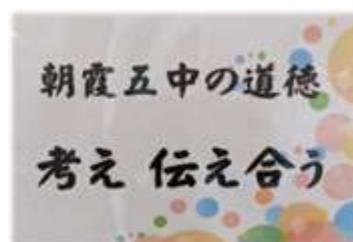
②「考え、伝え合う」時間の設定

教員のファシリテーション能力を育成し、学級での発表しやすい環境をつくるため、月1回、水曜日の放課後に全クラスで鑑賞教育の活動を10分間取り入れ、「考え、伝え合う」時間を設定した。指導方法としては、教員がファシリテーターの役割をにない、生徒の思いや考えを引き出し、多様な価値観にふれる活動となるよう工夫した。

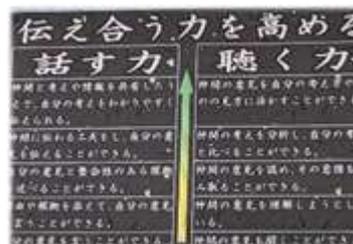


③校内道徳啓発用掲示物の作成

「考え、伝え合う」道徳授業を実施するために、校内の随所に「朝霞五中の道徳 考え 伝え合う」と書かれた掲示物を作成・掲示し啓発している。また、伝え合う力を高めるため、道徳の授業で使用するファイルに、「話す力」「聴く力」の行動目標を貼り、生徒が道徳科の時に常に意識して、活動できるよう工夫している。



また、多様な価値観にふれるため、各行事に合わせて、人権標語やいじめ撲滅宣言など生徒の思いや考えを記入したものや生徒一人一人の作品や成果物などを各教室や廊下に掲示し、誰でも見学できるようにしている。



④教材の共有化

道徳授業で実践した教材やワークシートなどの電子データを共有のフォルダに保存し、全教員が閲覧し活用できるよう整備した。経験の浅い教員にとって、ベテラン教員の作成した資料を活用できることはとても有効である。

埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

(3) 資料統計部の取組

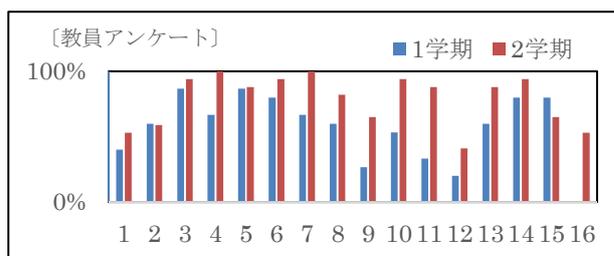
①生徒アンケートの実施

学期に1回、生徒を対象に道徳の授業についてのアンケートを実施し、道徳の授業に対する意識の変容を調べる。質問は、「道徳の授業で、自分とは違う考え方があることを知ることができたか」など、生徒に多面的・多角的に考える力がついたかどうかを調べるための内容11項目を設定している。



②教員アンケートの実施

学期に1回、教員を対象に、道徳の授業についてのアンケートを実施し、教員の道徳の授業に対する意識の変容を調べる。道徳授業の指導方法を工夫し実践しているかどうかを調べるため、「生徒の多様な考えを引き出すよう発問を工夫しているか」などの16項目を設定している。



③保護者アンケートの実施

保護者と方向性を共有するために、道徳内容項目について、保護者から見た子どもの達成状況や願いなどについてアンケートを実施した。保護者が子どもに不足している内容項目として、「高い目標設定」「探究心」「勤労」「社会性」「郷土の伝統文化」などをあげている。この結果をもとに次年度の道徳全体計画を見直す。

④「hyper-QU」の実施

全校生徒に「hyper-QU」を実施し、学級満足度や学校生活意欲度、ソーシャルスキル等について実態把握し、安心して自分の意見が言える学級になるよう改善を図る。

⑤教員の道徳授業における「虎の巻」の作成

「道徳の授業で工夫している点」や「必ず行っていること」「他の先生方にも実践してほしいこと」などについて教員が作成した資料「虎の巻」をもとに、校内研修会にて情報共有し、道徳授業をする上での悩みや疑問点などをお互い相談しあった。

5 研究の成果と課題

(1)成果

各部会の取組により、教員全体の道徳授業に対する意識が向上し、教員一人一人の道徳授業における指導方法の工夫・改善がみられた。また、道徳授業の実践を通して、自分の考えや思いを伝え合う活動が増え、多面的・多角的に考える生徒の育成につながっている。「規律ある態度」の「⑩話を聞き発表する」においても、本校の達成率が県平均を上回る等、「規律ある態度」を身に付けた生徒が増えている。

(2)課題

道徳授業を実践するにあたり、教員間での経験の差や価値観の違いもあり、生徒の多様な考えを引き出す指導方法について共通理解を図ることが課題である。次年度は、教員全体の指導力を向上させるため、校内研修推進委員会を中心として部会ごとに組織的に取り組み、生徒の多面的・多角的に考える力の育成につなげたい。